

B-78 被服技術検定における疲労度の研究 (第6報)

名古屋市立女短大 高橋 春子
東海学園女短大 ○西条 セツ

1. 全国校長協会主催の被服技術検定を行なう機会にフリッカー測定器と近点計により眼の疲労状態を測定した。

被服の作業は午前3時間の作業後に1時間の休憩をとり、午後2時間の作業をなし計5時間の作業を行なった。

2. A. 和裁(2級)の技術テストは高校被服科の生徒45名につき作業と同時に測定した。同材料は(大裁女単衣)木綿浴衣地 27.7'S × 30.8'S, 36cm 幅 × 11m を使用し、準備は技術検定要項によった。手縫とミシン縫併用。

B. 洋裁(2級)の技術テストは同科の生徒43名につき測定した。同材料は(女児服)綿ブロード 40'S × 40'S で色は水色でミシン仕立。

3. 既報の3時間作業の場合、フリッカーの変化型は6種に分類されるが、近点計の変動型においては、上記の6種型のほかに変動のない直線型が加わり、合計7種となった。

フリッカーの変化型と近点計の変動型の相互関係を調べてみると、フリッカーの変化型にかかわらず、近点計の変動型の多発順位は第1に和裁ではジグザグ型、第2に山高型となった。洋裁においても同様に第1にジグザグ型、第2に山高型となり和洋裁とも共通の順位となって現われた。

これによって肉体の疲労を大別すると、和洋裁にかかわらず2種になると考察された。1つは疲労が連続して出てくる山高型と、他の1つは緊張と弛緩とが繰返すジ